

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：33921

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16099

研究課題名(和文) 助手と蔵書からみる東京帝国大学の部局組織と部局図書館の関係

研究課題名(英文) The Relationship between the Administration Organization and the Department Library in the Imperial University of Tokyo from the Viewpoint of the Research Assistant and the Library Collection

研究代表者

河村 俊太郎 (Kawamura, Shuntaro)

愛知淑徳大学・人間情報学部・准教授

研究者番号：90733410

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、図書館というメディアによる知識基盤が部局の運営組織によって受けていた、また逆に与えていた影響について検討を行うための基礎として、東京帝国大学の学術知の扱いについてまず検討し、その後助手の役割が対照的であった東京帝国大学経済学部と東京帝国大学工学部電気工学科の2つの部局に焦点を絞り、経済学部における図書館と助手の関係、電気工学科における図書館と教官の関係について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study is the basis to the study of the relationship between the university library system and the administration organization in the Imperial University of Tokyo. Firstly, we examined how to form the academic knowledge in the university. Secondly, we clarified the relationship between the faculty, especially research assistant, and the department library in the Faculty of Economics and the the Electric Engineering department in the Faculty of Engineering.

研究分野：図書館情報学

キーワード：東京帝国大学 大学図書館 歴史 助手

1. 研究開始当初の背景

現在、電子書籍、インターネットなどの新しいメディアが普及しつつある中で、学術的知の様態も変化しつつある。だが、そもそもその様態が、学術的知の主たる担い手である大学、特に学術的知において特権的な地位を持つ図書館を所蔵している、メディアによる知的基盤である図書館においていかなるものであったのかについては、これまで十分な検討がなされてこなかった。

研究代表者はこういった問題意識に基づいて、教官、特に教授と助教授にとって大学図書館がどのように位置づけられてきたのかについて、日本の学術的知の重要なモデルであった東京帝国大学を対象に研究を行ってきた。その結果、教官は図書館の提供する知識基盤を、自らの研究に特化したものではなく、広くその部局の研究者が利用するものと位置づけられており、部局図書館と中央図書館からなる図書館システムの中では、教官は中央から部局への統制を拒んできたことを明らかにしてきた。

この研究は、大学組織が部局ごとに自律的な組織であるというたびたびなされる指摘[e.g. 引用文献]に基づいて、部局を中心として図書館システム、ひいては大学全体がどのように組織されているのかを検討したものであり、図書館の蔵書を中心とした点でユニークな研究である。だが、これまでの研究代表者の研究では、図書館システムについて、教官の知識の世界と図書館との対応関係を中心に検討しており、個々の教官ではない運営組織全体と図書館との関係については十分に検討することができなかった。

そこで、研究代表者は東京帝国大学の部局の運営組織上の特徴を示しているものは何であるのかについて検討し、助手に注目することに思い至った。助手は部局ごとに多様な役割を与えられており、その存在様態は個々の教官ではなく、図書館を含めた部局に対する運営組織の捉え方を反映している。助手の役割は、大学の主な機能である研究、教育へのウェイトの違いから分類できるという先行研究における指摘(引用文献)から、本研究では、助手の役割が研究センターと教育センターという対照的な2つの部局、経済学部と工学部電気工学科に焦点を絞り、図書館と助手との関係から、メディアによる知識基盤が部局の運営組織によって受けていた、また逆に与えていた影響について検討を行う。

2. 研究の目的

本研究では、助手の役割が対照的であった経済学部と工学部電気工学科の2つの部局に焦点を絞り、両者における図書館と教官、特に助手の関係について明らかにする。そのために、これまでの研究代表者の研究と同様、対象とする2つの部局の蔵書の構成と、部局

が専攻している学問の動向、部局のインフラ、教官の専攻、経歴の関係について調査する。そして、外部の条件を踏まえつつ、それぞれの部局の助手が研究、教育に対して与えられていた役割が、蔵書構成、分類法などの図書館の管理、そして利用者層、利用目的などの図書館の利用に影響していたか、また逆にそれらに影響を受けていたかを検討する。

3. 研究の方法

(1) 経済学部と電気工学科を検討する前の基礎とするために、東京帝国大学及びその図書館全体における学術的知の扱いについて、これまでの研究代表者の検討及び大学史、図書館史、学問史などの先行研究をもとにしつつ、明らかにする。

(2) 経済学部の助手に関する研究、回顧録等を収集し、助手の経歴、専攻、助手に与えられた役割を明らかにする。そして、助手と図書館の管理と利用の関係を、助手の研究とこれまでの研究代表者の研究で収集した購入図書との関係、図書館について助手が果たしていた役割に加え、以下の4つの要素から考察する。経済学の学外における動向、学内で図書館を始めとする部局の施設が物理的にどこにおかれ、制度上部局がどのように位置づけられていたのかという部局のインフラ、教授と助教授という助手以外の教官がどのような経済学の分野を専攻し、出身大学、留学歴はどうであったのかといった経歴、教授、助教授が図書館をどのように利用し、図書館をどのような機関として管理していたのかという教官による図書館の位置づけ方。

(3) 経済学部に対して行った調査と同様の調査を工学部電気工学科に対して行い、電気工学科の教官と図書館の関係について明らかにする。具体的には、『東京帝国大学附属図書館増加図書月報』及び東京大学工学部工2号館図書室に残された件名カード目録による購入された蔵書の出版地と分類、『Science abstracts. Section B, Electrical engineering』、『電気学会雑誌』など電気工学関係の抄録誌、学会誌の検討による工学関係の図書、論文などの研究成果の出版動向の検討、そして電気工学史の文献の検討による、電気工学の学外における動向、工学部の歴史についての文献、また『第一工学部会報』など部局についての同時代の資料、東京大学に所蔵されている東京帝国大学時代の一次史料についての検討による、部局のインフラ、上記に加え、教官についての自叙伝、回顧録等の検討による、教官の専攻、経歴、といった教官を取り巻く環境を調査する。

4. 研究成果

(1) 東京帝国大学では、大学を支える共通の理念というものがなく、学術的知は、それぞれの部局のレベルにおいては、その分野全体の、ただし最先端の内容まではフォローしない範囲で形成され、個々の教官の中に最先端の知識は散らばった状態であることが明らかとなった。この内容は、「図書館との関係からみた東京帝国大学における学術的知の形成」として発表された。

(2) 経済学部において助手は自分の研究を行うことが中心の身分であった。だが、学部の事務員に図書係が存在しながら、図書室の図書の選択、分類を助手が行っていた。さらに、学部の演習へも助手は出席をしていた。こうした形で、助手は学部の教育体制の中にも位置づけられていたことが明らかとなった。また、研究室で購入された図書と助手の研究分野との間に、助手が専攻していたため購入が多くなった分野の図書があるといった関係はなかった。ここから、学問全体を俯瞰できるように図書室の蔵書は購入されており、さらにそうした図書室の体制を、助手が研究室の教育体制に係わることで引き継げるようになっていた。このことから、経済学部の図書室は運営組織との関係から見ると、教育支援の役割を与えられ、また資料が経済学において重要であることを理解する学生、教官を再生産することで、運営組織をさらに強固なものとしていたことが明らかとなった。この内容は、「助手からみる東京帝国大学経済学部図書室の役割」として発表された。

(3) 電気工学科図書室は、通信分野をはじめとするいわゆる弱電など教官が専門分野としていた分野よりも、理論、一般といった分野の図書が多く購入されており、教官の研究のためではなく、学生の教育のために設置されていた。また、東京帝国大学は講座制で決められた範囲内の研究や教育のみを行うように制度が設計されていたため、土木工学科、機械工学科など工学部の他の講座が主として研究する分野や新しい分野の図書は、図書室ではあまり購入されていなかったことも明らかとなった。この内容は、「蔵書の分析による東京帝国大学工学部電気工学科図書室の教育、研究における位置付け」として発表された。

今後は、経済学部と同様の検討を行うことで、電気工学科の助手と蔵書との関係について検討していき、経済学部と電気工学科の比較を行う予定である。それにより、研究センターか教育センターかという助手に与えられた役割の相違が、図書館の管理と利用のどのファクターへ影響するのか、またその逆の影響はあるのかを明らかにする。そしてこれをもとに、研究と教育に運営組織が与える重みづけと知識基盤の影響関係を明らかにしていく。

<引用文献>

Burton R. Clark、University of California Press、The Higher Education System: Academic Organization in Cross-National Perspective、1986、315
山野井敦徳編著、玉川大学出版部、日本の大学教授市場、2007、340

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 3 件)

河村俊太郎、蔵書の分析による東京帝国大学工学部電気工学科図書室の教育、研究における位置付け、2018年度日本図書館情報学会春季研究集会、2018

河村俊太郎、助手からみる東京帝国大学経済学部図書室の役割、2016年度日本図書館情報学会春季研究集会、2016

河村俊太郎、図書館との関係からみた東京帝国大学における学術的知の形成、日本図書館文化史研究会 2015年度研究集会、2015

〔図書〕(計 1 件)

河村俊太郎、東京大学出版会、東京帝国大学図書館、2016、305

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://researchmap.jp/kawamura/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河村 俊太郎 (KAWAMURA Shuntaro)
愛知淑徳大学・人間情報学部・准教授
研究者番号：90733410

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()